

赤血球造血刺激因子製剤（ESA）投与量算出支援サービスの開発に着手

株式会社日情システムソリューションズ（代表取締役社長：池田 勝）は、横浜国立大学（学長：長谷部 勇一）安全衛生推進機構の藤川哲也准教授（医学博士、医師）が研究開発した「赤血球造血刺激因子製剤の新規投与量算出方法」を活用したクラウドサービスの開発に着手しました。

臨床現場で活用しやすいシステムを開発・構築し、社会実装化を進めることにより、腎性貧血治療の改善に貢献して参りたいと考えており、臨床現場に向け、2020年10月からのサービス提供を目指します。

なお、この開発に先立ち、当社と横浜国立大学との間において、共同研究契約を締結しており（令和2年5月1日付け）、この契約に基づき、クラウドサービスの提供開始後も、多くの患者様の治療状況についてAIを活用した分析・解析を行い、予後への影響を評価して参ります。

<ESA 新規投与量算出方法について>

藤川哲也准教授が研究開発したESAの新規投与量算出方式は、血色素値（ヘモグロビン濃度）の固有低下量・上昇量という概念を取り入れ、高い割合で目標範囲に制御（適正な薬剤の投与量を算出）することを可能にしました。標準的な投与方法との比較では、1.5倍の効果が確認されています。

ご参考「横浜国立大学 赤血球造血刺激因子製剤の新規投与量算出方法の開発」

https://www.ynu.ac.jp/hus/koho/24426/34_24426_1_1_200826103047.pdf

<社会的な背景>

日本には30万人以上の透析患者がいるといわれており、多くの透析患者が合併症の一つである腎性貧血の治療を受けています。貧血は動悸や息切れ、倦怠感などの症状がみられ、日常生活へ支障をきたし、腎機能や心機能を悪化させます。

腎性貧血の治療は、血色素値を目標値まで改善することを目指しますが、標準的な投与方法では目標範囲に制御することが十分とはいえ、予後を改善させる余地が残されていました。

この度のクラウドサービス開発は、藤川哲也准教授の研究成果を活用させて頂きながら、このような社会的な要請に応えるものとなっています。

<サービスのご提供について>

当サービスは、クラウドサービスとしてご提供します。

患者 1 人毎の月額利用料金をお支払いいただくことで、当該月の利用回数の制限なくご利用いただけますので、より効果的な薬剤投与治療が可能となります。

当サービスを腎性貧血治療の臨床現場に提供することで、患者の早期症状改善に寄与することと併せ、担当医が投薬量算出に要する作業の軽減を目指します。

■サービス提供開始時期：2020年10月（予定）

<会社概要>

社 名：株式会社日情システムソリューションズ

所 在 地：山形県酒田市京田二丁目 69 番 3

社 長：代表取締役社長 池田 勝

設 立 日：1988 年 2 月 1 日

事業内容：自治体・民間企業向けの各種業務システムを、自社データセンターからクラウドサービスとして提供しています。また、IoT や AI を活用した課題解決型ソリューションにも注力しており、技術者の育成と新たなソリューションの企画・開発・販売に取り組んでいます。

U R L： <http://www.nichijosys.com/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社日情システムソリューションズ

東京支社 ソリューション営業部

（担当）芝田、工藤 TEL：03-3526-2251